

## 1. 実況上の着目点

① オホーツク海には発達した低気圧があつて東北東進。朝鮮半島付近に高気圧があつて東に移動。全国的に気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしけている所がある。上空寒気の影響で西～北日本の日本海側では1時間に10mm前後の雨を解析。雷を検知。北海道地方の山地で3時間に5cm前後の降雪を観測。

② 前線が沖縄の南～日本のはるか東にのび、下層暖湿気の影響で、沖縄の南で雷を検知、激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 29日は500hPa -30℃以下の寒気を伴うトラフが北日本を通過し、大気の状態が不安定となる所がある。北日本では29日は、落雷や突風、降ひょうに注意。

② 29日は1項②の前線は沖縄の南～小笠原諸島付近～日本のはるか東にほとんど停滞。30日にかけて前線北側の紀伊半島の南から伊豆諸島の南に地上シアーラインが停滞する。また、30日にかけて500hPa 5820m付近のトラフが西日本から伊豆諸島付近を通過する。これらの影響で、伊豆諸島では29～30日は、大気の状態が不安定となり、激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。

③ 30～31日は、500hPa 5340m付近のトラフに対応した低気圧がアムール川中流域からオホーツク海に進み、寒冷前線が北海道地方を通過する。前線の近傍では大気の状態が不安定となる所がある。北海道地方では、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

④ 500hPa 5760m付近の正渦度移流とトラフに対応して、30日夜には華中で前線が顕在化。31日夜にかけて西～東日本太平洋側にのびる。前線に向かう暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島と西～東日本では31日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。

⑤ 1項①の低気圧は29日夜にはカムチャツカの東に進み、1項①の高気圧は30日朝にかけて日本の東へ移動する。低気圧の周辺や高気圧の張り出し、2項②の前線の北側、2項③④の前線付近では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。全国的に31日にかけて、強風や高波に注意。伊豆諸島では30日は、高波に注意・警戒。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：伊豆諸島100mm。② 波浪(明日まで)：伊豆諸島・沖縄5、北海道・東北・北陸4、その他広い範囲で3m。③ 高潮(明日まで)：東日本では、注意報基準を超過する所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。